



『のりづけされた詩』（4月26日）を振り返って・・・

<みんなの感想より>

- 先生に本当のことを言って新しい詩を印刷してある紙の上からのりづけしたことは、すごく言葉では言い表せないような自分自身との対話があったんだと思った。（男子）
- 言い訳をする。それは、自分のしたことから目を離す、逃げるといった最悪の行為。ダメだとわかっているもついでしてしまう。でも、わかっているだけでは意味がない。社会に出て、とても恥ずかしいことになる。私はそう感じたので、これからは言い訳せず、自分のしてしまったことに責任をもって、謝るなら謝る、ということをしていこうと思いました。（女子）
- 誰かにうそついたりだましたりしたら、自分が結局イヤな思い出として深く残ってしまうとわかったので、正直にしようと思いました。また、誰かのマネだけではなくて、自分なりにがんばってみることの大切さを考えさせられました。（女子）
- うそをついたり言い訳をすることによって、後で自分が悪い事したなって思うし、後悔すると思った。（男子）
- 今日の授業を振り返って、ダメなことはしたらダメだと分かっているもしてもしまったら、自分が責任をとらないといけないし、自分であやまちを正さないといけないと思いました。坂田さんは、自分のしたことに責任をとって、自分自身で自分のかいた詩を貼ったんだなあと思いました。（女子）
- やっぱり、マネしたことは悪いことやし、それを先生に言うのは、良かったと思う。マネしても、だまっていたらあかんから、先生に言ったと思う。のりづけしていく努力はすごいと思った。直したということをもみんなに伝える勇気がすごい。（男子）
- 私はこのように「やってしまった...」と思うことが何度かありました。「バシなければいいか」と思ったこともあります。でも、みんなはしらなくてもただ1人自分だけは知っています。自分に正直にこれからを過ごし、自分らしさを求めていきたいと思いました。（女子）
- みんなにバシなかったらそれでいいという罪を逃れようとするような気持ちはダメだなと思います。いつも自分に対して正直、素直、誠実ということが、とても大切だと思いました。（女子）
- 自分がしてしまったことに責任をもつことは大切だと思った。一度やってしまったことはもう消せないけど、自分なりに反省することが大切だと思った。（男子）
- 坂田さんは詩集が完成してからでも言いにくいのに、正直に打ち明けていてえらいと思った。自分で1枚1枚ののりづけをして反省するのは良いことだと思った。でもこんなことにならないように、自分がしなないといけない事や、してはいけない事をしっかり考えて行動した方が良いと思う。

クラスで詩集をつくることになった。友人から期待されるけれども、いい言葉が思い浮かばない。そんな状況に不安や焦りは増していくばかり...そこで坂田さんがとった行動は、ある詩集の言葉をそのまま使うというものでした。第3者から見れば、「OK」となる状況の中、坂田さんは心にある“モヤモヤ”と向き合いました。そして、1つひとつの詩集に自分の新しい詩をのりづけするという行動をとります。坂田さんの痛切な思いが伝わるようでした。「つい...」という思いが芽生えた時、それにストップをかける・責任を果たすのは自分自身です。大切な自分を裏切るような悲しい行動、やめになりたいですね。